１月２６日　創世記３章１～２４節　【解説と黙想】

罪と堕落

聖書の中で、これほどまでに人間の本質をえぐりだす物語はないように思います。私たちがどうしてこれほどまでに「悲惨」(ハイデルベルク信仰問答問３～11参照)な存在となっているのかを見事に描き出します。いかに優れた文学も、このテキストにはるかに及ばないはずです。何十回、何百回と読み続けても気づきが与えられるだろうと思います。それだけに、一度で扱うことは難しいはずです。どうしても、はずせないのは、罪とは何かということだと思います。

「園のどの木からも食べてはいけない」との蛇の言葉には、神の御言葉と正反対のことが告げられます。まるで神は「してはいけない」と規制し、拘束する人間にとって善きお方ではないかのようなイメージを植えつけようとします。悪魔は、今なお、聖書の神やキリスト教についての負のイメージを植えつけるために働き続けています。

女は、「触れてもいけない」と御言葉にないことを付け加えます。さらに、「必ず死ぬ」との御言葉を「死ぬかも」と薄めてしまいます。神の御言葉に対する誠実、真実がすでに崩れています。彼女は、そこで既に罪を犯しはじめ、これを行動に移すことは時間の問題です。

蛇は騙します。「決して」と確信に溢れ、「死なない」と偽ります。悪魔の強さは確信をもって嘘をつくからかもしれません。そして、人間はその強さに弱いのです。御言葉に確信をもって立つ以外に、私たちも敗北するでしょう。

木が「そそのかす」ことはありえないでしょう。しかし、彼女の心が変化し、神に反抗しはじめると世界が変わって見えるのでしょう。

エバはアダムにも木の実を渡します。アダムは、蛇の誘惑にいわば間接的に、エバを通して敗北します。何の躊躇もみせないで食べてしまったようです。アダムの罪とその責任はエバより軽いなどということは論外です。

「二人の目は開け」とはこの上ない皮肉のことばです。蛇が私たちの目を開かせることはありません。彼らは、自分たちがもともとの神の似姿としての栄光の姿を失ってしまったことに気づいただけです。そしてそれは、自分を自分で恥じる、自分とのよい関係が壊れたことでしかありません。神さまの御言葉に背く罪は、神との関係を破壊し、自分との関係を破壊し、他者との関係を破壊し、世界との関係を破壊するものなのです。

アダムとエバの堕落物語は、今の自分と世界の悲惨の原因を示す､現代の物語です。しかし、「どこにいるのか」と優しく悔い改めと救いへと招く神がおられます。「皮の衣」(21節) で､予告された贖い主イエス・キリストはすでに来られたことを明るく告げながら語りたいと思います。(相馬伸郎)

《参照箇所》 申命記６章４～９節、８章１～１１節
《教理問答》 子どもと親のカテキズム 問１９～２３

１月２６日　創世記３章１～２４節　　【説教展開例】

罪と堕落

◇…… 単元のねらい ……◇

罪を犯すことがどれほど人間と世界を悲惨のどん底に落としてしまうものであるかを教えられ、自分たちや社会のなかの「あるある」をいくつも発見し考えることができたら幸いです。そして何よりも、神の赦しの光、イエスさまの犠牲を指し示すことで罪人であることを素直に認め、同時に罪にあらがって生きる信仰の志を固くされたいと思います。

「隠れないで出ておいで」

アダムとエバは、神さまによって創造されました。神さまの栄光にキラキラと輝く、それはそれは美しくすばらしい人間でした。彼らは、いつも神さまを愛し、神さまに愛されていました。神さまが彼らのためにつくられた世界は夢のように美しく、生きて行く上でまさに楽園としかいいようがありません。しかも、彼らには最愛の人がお互いに与えられていました。アダムとエバは、神と共にエデンの園で、これ以上ないほど楽しく暮らしていました。

聖書には書かれていませんが、何百、何千年もすばらしい生活が続いたのかなと想像します。ところが、そのすばらしい日々は、突然、終わってしまいました。

突然、蛇が現われます。蛇は悪魔のことです。蛇は、造られたものの中で一番、ずる賢いものでした。聖書では賢い（１節）といわれますが、良い意味ではありません。ずる賢いのです。

蛇は言いました。「園のどの木からも食べてはいけない」これは嘘ですね。神さまは「食べなさい」(2:16) と言われました。つまり蛇は、神さまは「あれをしてはいけない。これをしてもいけない。」と言って、まるで、私たちが楽しく生きることを喜んでいないかのように、間違ったイメージを植えつけようとしたのです。でも、そんな嘘は、ほんとうは簡単に嘘だとわかるはずです。エデンの園は、ただアダムとエバのために、彼らが喜んで生きる場所として神さまが全力を傾けてお造りになられたのです。神さまはいつも人間の幸せと喜ぶ姿を見て、ご自分の喜びにされるのです。そして、二人とも神さまといっしょにいられてそれが嬉しかったのです。

でも、ここで、私たちも本当に気を付けなければならないとおもいます。「イエスさまを信じると、教会に毎週かようと、学校のみんなと上手にやれないようになるかも。信仰ってほんとうはめんどうかも。信じていない人の方がたくさんいるし」そう思うとき、危ないですね。

いったいエバの間違い、失敗はどこにあるのでしょうか。それは、神さまのとうとい御言葉に付け加えることと薄めることです。神さまは「食べるな」と言っただけです。「触れてもいけない」とは、エバがかっ

てに加えただけです。神さまは「必ず死ぬ」と言いました。ところが「死ぬかも」と薄めてしまいました。そうなのです。エバが悪魔の誘惑に負けてしまったのは、悪魔の力が強烈だったからではありません。一番の問題は、エバが、神さまの御言葉に対してまじめじゃなかったからです。本気になっていなかったからです。それが罪の始まりです。エバはもう既に罪を犯しはじめていました。ですから、悪魔にそそのかされるままになることはもう時間の問題だったのです。

蛇は、「チャンス、これで勝てる」と思ったに違いありません。もう、自信満々で「決して死なない」ときっぱり嘘をつきます。このいわば悪の確信に、エバはひっぱられてしまいます。僕たち私たちも、「教会に生きたくないな」と考えているとき、学校の友だちや先生にこう言われたらどうでしょう。「成績をあげるため、部活でがんばるため、今、教会に行かなくても大丈夫、むしろ損になるよ」。

でも、本当の問題は、友だちでも勉強でも部活でもないと思います。神さまがどんなに、僕たち私たちを愛してくださっているか、その確信がなくなってしまえば、なんだかすべてのものが、「信仰は第二、教会に行くのは第二にした方が、かしこいよ。君だけがそんな、そんなことをしているのだよ」と語りかけて来るようになってしまいます。つまり、自分の信仰の気持ちこそ大事なのです。

エバはアダムにも木の実を渡します。アダムはすぐに食べてしまったようです。誘ったエバが悪いとか、決して言えません。アダムも蛇に負けたのです。信仰が弱かったのです。どっちもどっちです。

さて、二人はどうなったのでしょうか。神さまは、必ず死ぬと言いました。ところが死にません。「二人の目は開け」たのです。なんだ、良かった。そうではありません。これまで自分たちが裸であることは知っていました。自分たちの姿はキラキラ光り輝いていたのです。ところが、神さまの御言葉に背いて、信仰を曲げてしまったとき、ありのままの自分が恥ずかしくなったのです。神の栄光を失ってしまったのです。
神さまの御言葉に背く罪は、神との関係をこわし、自分との関係をこわし、友だちとの関係をこわし、そればかりか世界との関係もこわしてしまったのです。

そんな僕たち私たちに対して、神さまは、「もう面倒見きれない。裏切りもの、死んでしまえ」と、言われましたか。違います。「どこにいるの？」と優しく、「隠れていないで赦してあげるから出てきなさい」と招かれました。そしてとうとう、神さまはイエスさまを僕たち私たちのために十字架につけて、アダムとエバだけではなくすべての人を赦す道、エデンの園にとりもどず道を開かれたのです。今朝、僕たち私たちは神さまの御前に出て、礼拝しています。ともに心から感謝しましょう。　（相馬伸郎）

《今週の暗唱聖句》
罪が支払う報酬は死です。
しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。
（ローマの信徒への手紙６章２３節）

１月２６日　創世記３章１～２４節　　【幼稚科】

罪と救い

神さまは、土の塵から最初の人アダムを造り、アダムのあばら骨から女の人エバを造りました。二人は神さまが造られたエデンの園で、神さまを愛し、働き、幸せでした。

ところが蛇が現れ、神さまが食べてはいけないと言った木の実を、エバに勧めました。これを食べたら神さまのように賢くなれると嘘をついたのです。「決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」という神さまの言葉に背いて、エバもアダムも食べてしまいました。

二人は神さまが恐くなり、自分の姿も恥ずかしくなりました。木の実を食べたのは、君のせいだ、蛇のせいだと喧嘩を始め、エデンの園から追い出されました。

私たちもアダムとエバの子孫です。神さまに見捨てられてしまったのでしょうか。いいえ、神さまは私たちに、救い主をくださいました。イエスさまが、私たちの代わりに、十字架で私たちの罪の罰を受けて下さったのです。だから私たちは赦されています。神さまに愛されている子どもなのです。

A．神さま（かみさま）
　　人　間（にんげん）

B．神さま（かみさま）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

罪（つみ）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

人　間（にんげん）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

A．人間が神さまを愛し従い、幸せに歩んでいる図。（♡を描くとわかりやすい）
B．人間が神に背いたために、交わりが絶たれた図。
A．とB．を用いながら、今日のお話を復習し、最後に、B．の「罪（つみ）」の上に、大きく太く十字架を描き、神さまと人間を繋ぐ。キリストが十字架で私たち人間の罪を処理し、神との和解をもたらしたことを鮮やかに伝える。

１月２６日　創世記３章１～２４節　【小学科上級・中学科】

罪と堕落

１．創世記３：１～７を読みましょう。

①蛇について説明してみましょう。

②蛇の言ったことと神さまが言われたこと、また女が言ったことと神さまが言われたことを比較してみましょう。

③女はなぜあの果実を食べたと思いますか。

④女とその夫が果実を食べたあと、何が起こりましたか。

２．創世記３：８～19を読みましょう。

①二人は会いに来られた神さまにどんな反応をしましたか。神さまは二人をどのように扱いましたか。なぜそうされたのでしょうか。

②神さまの質問にそれぞれ二人は何と答えましたか。なぜそうしたと思いますか。。

③蛇と女の関係、これから起こることについて説明してみましょう。

④神さまはなぜ土を呪われましたか。この結果、男に何がもたらされましたか。

３．創世記３：20～24を読みましょう。

①アダムが女につけた名前は何ですか。その理由は。また、神さまが二人に与えてくださったものは何ですか。その理由も考えてみましょう。

②二人がエデンに戻れないように神さまがされたことは何ですか。

③神さまの素晴らしい創造に起きた変化は何ですか。その責任は誰にありましたか。この箇所から、神さまについて学べることは何でしょうか。